



北海道医療センターには28の診療科があります。その中で活躍する様々な診療科・診療部門が今取り組んでいる課題や最新の医療知識などをご紹介します。



【外科】

**救急医療だけじゃない！
一般外科も、“がん”の手術もお任せ下さい！**



北海道医療センター 外科は、病院自体が三次救急医療機関であるため、救急車で搬送された重篤な患者様を診ることが多いと思われがちですが、実はその割合は全手術件数の約2割程度。8割はがんなどの一般外科手術をしています。そこで今回は救急医療以外における当院外科の取組をご紹介します。

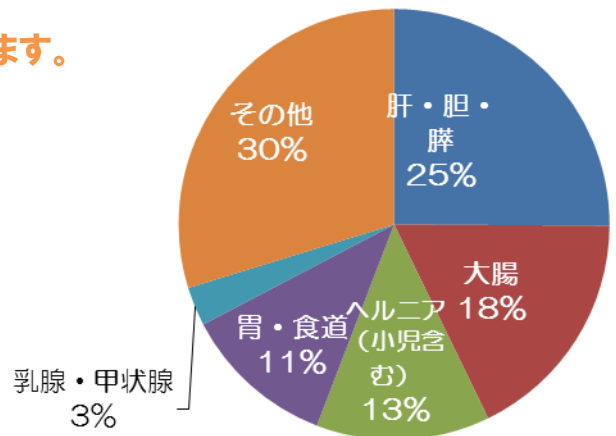
重篤な併存症をお持ちの患者様も、安心してお任せください。

社会の高齢化に伴い当院で外科手術を受ける患者様の平均年齢は75歳を超えています。高齢化によりいろいろな合併症を有している患者様が増えていますが、当院には28に及ぶ診療科がありそれぞれがしっかりと連携を行う体制にありますので、安心して手術を受けていただくことができます。透析が必要な患者様や、一般病棟での治療が困難な精神科疾患の患者様の受け入れも可能です。

各種消化器系の“がん”治療に力を入れています。

近年特に、消化器がんの手術にも力を入れています。2013年度では胃がん、食道がん、胆管がん、膵臓がん、肝臓がん、乳がん、甲状腺がんなどの手術を行った他、大腸がんは91例にのぼり、「北海道の病院 手術数ランキング2014(道新受験情報別冊)」において大腸がんの手術件数で10位にランクインしています。

また、当院ではがん患者様の術後の化学療法は主に外科でおこなっています。がんの手術から術後の補助化学療法、経過観察まで、滞ることなく外科で対応させていただきます。



患者様にやさしい腹腔鏡下手術、増えています。

良性疾患のみならず、がんの手術でも腹腔鏡下手術に力をいれています。2014年(1月～10月)に施行した胃がん、大腸がん手術例の腹腔鏡下手術の比率は52.2%で、胆石症、急性虫垂炎、ヘルニア、腸閉塞、胃瘦造設術などの良性疾患では82.4%でした。患者様のためにも、傷が小さく、体にやさしい腹腔鏡下手術を、これからもさらに推進していくつもりです。

北海道医療センター外科における
外科手術件数の割合(2013年度)

氏名・職名
伊藤 美夫(副院長)
高橋 宏明(外科系副診療部長)
植村 一仁(外科医長)
藏谷 大輔(外科医師)
坂本 讓(外科医師)



手術室



左から、坂本・高橋・小野(研修医)・植村・伊藤・藏谷